

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 柔道整復スポーツ学科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|------------|-----------------|---|--------------------------------|--|---------------|
| 科 目 名 | 生理学 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (4) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 第2校舎301 |
| 担 当 教 員 | 岡田 健志 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 生理学では、ヒトの健康や病気を理解するために欠かせない基礎的の学問である。目標としては、柔道整復師を目指す学生に人体の生命現象の機序(生理機能)に関する基礎医学的知識を修得させる。生理学基礎(細胞生理学など)、植物性生理学(血液、骨、循環、呼吸、消化吸收、排泄、内分泌など)、動物性生理学(筋肉、神経、感覚、高次神経活動など)の順で講義を進み、ヒトの正常な生理機能(必要に応じて病態生理を交える)を解説する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 期末試験にて記述試験を行なう。 その得点(100点満点中60点以上合格)で評価します。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 教科書:生理学改訂第4版(南江堂) | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 医療従事者は、ヒトの健康や病気を理解しなければならない。 専門学科の礎になれるよう、本講義に通じて、きちんと基礎知識を身につけること。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 生理学の基礎について理解する① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人体の化学的構成、ホメオスタシス、細胞の機能的構造、拡散・浸透・濾過、受動輸送と能動輸送、エンドサイトーシスとエキソサイトーシス 小テスト | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 生理学の基礎について理解する② | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人体の化学的構成、ホメオスタシス、細胞の機能的構造、拡散・浸透・濾過、受動輸送と能動輸送、エンドサイトーシスとエキソサイトーシス 小テスト | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋の生理学について理解する① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 筋肉の種類(骨格筋、平滑筋、心筋)、骨格筋構造、筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ、骨格筋の収縮の仕方・エネルギー、筋肉の長さや張力の関係、筋の熱の発生 平滑筋、心筋;小テスト | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋の生理学について理解する② | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 筋肉の種類(骨格筋、平滑筋、心筋)、骨格筋構造、筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ、骨格筋の収縮の仕方・エネルギー、筋肉の長さや張力の関係、筋の熱の発生 平滑筋、心筋;小テスト | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋の生理学について理解する③ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 筋肉の種類(骨格筋、平滑筋、心筋)、骨格筋構造、筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ、骨格筋の収縮の仕方・エネルギー、筋肉の長さや張力の関係、筋の熱の発生 平滑筋、心筋;小テスト | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|--------------------------------|--|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経の生理学について理解する① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 神経細胞の形態、静止膜電位、活動電位、閾刺激、全か無かの法則 小テスト | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経の生理学について理解する② | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 神経細胞の形態、静止膜電位、活動電位、閾刺激、全か無かの法則 小テスト | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経の生理学について理解する③ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 不応期、イオンチャネル、興奮の伝導・伝達 小テスト | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経の生理学について理解する④ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 不応期、イオンチャネル、興奮の伝導・伝達 小テスト | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経の生理学について理解する⑤ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 神経系の成り立ち:反射と反射弓、体性・自律神経、末梢・中枢神経 内臓機能の調節:交感神経と副交感神経、化学伝達物質 内臓機能の視床下部による調節:摂食行動・情動行動の調節 小テスト | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動の生理学について理解する① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 神経系の成り立ち:反射と反射弓、体性・自律神経、末梢・中枢神経 内臓機能の調節:交感神経と副交感神経、化学伝達物質 内臓機能の視床下部による調節:摂食行動・情動行動の調節 小テスト | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動の生理学について理解する② | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 姿勢と運動調節: 運動の調節のしくみ、骨格筋の感覚器、体性反射と中枢、 脊髄反射、脳幹反射 小テスト | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動の生理学について理解する③ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 姿勢と運動調節: 運動の調節のしくみ、骨格筋の感覚器、体性反射と中枢、 脊髄反射、脳幹反射 小テスト | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動の生理学について理解する④ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 姿勢と運動調節:小脳と大脳基底核の機能、新皮質運動野の機能 高次機能:大脳皮質の機能分化、脳波、覚醒と睡眠、新皮質連合野 小テスト | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 感覚の生理学について理解する① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感覚の種類・一般的性質 体性感覚(皮膚感覚、深部感覚)、内臓感覚(内臓痛覚、関連痛) 嗅覚と味覚 小テスト | | |

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 柔道整復スポーツ学科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-------------|---|---------|--------------------------------|--|---------------|
| 科 目 名 | 生理学 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (4) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 第2校舎301 |
| 担 当 教 員 | 岡田 健志 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 生理学では、ヒトの健康や病気を理解するために欠かせない基礎的の学問である。目標としては、柔道整復師を目指す学生に人体の生命現象の機序(生理機能)に関する基礎医学的知識を修得させる。生理学基礎(細胞生理学など)、植物性生理学(血液、骨、循環、呼吸、消化吸收、排泄、内分泌など)、動物性生理学(筋肉、神経、感覚、高次神経活動など)の順で講義を進み、ヒトの正常な生理機能(必要に応じて病態生理を交える)を解説する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 期末試験にて記述試験を行なう。 その得点(100点満点中60点以上合格)で評価します。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 教科書:生理学改訂第4版(南江堂) | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 医療従事者は、ヒトの健康や病気を理解しなければならない。 専門学科の礎になれるよう、本講義に通じて、きちんと基礎知識を身につけること。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第16回 | 授業を通じての到達目標 | 感覚の生理学について理解する② | | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感覚の種類・一般的性質 体性感覚(皮膚感覚、深部感覚)、内臓感覚(内臓痛覚、関連痛) 嗅覚と味覚 小テスト | | | | |
| 第17回 | 授業を通じての到達目標 | 感覚の生理学について理解する③ | | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感覚の種類・一般的性質 体性感覚(皮膚感覚、深部感覚)、内臓感覚(内臓痛覚、関連痛) 嗅覚と味覚 小テスト | | | | |
| 第18回 | 授業を通じての到達目標 | 感覚の生理学について理解する④ | | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 聴覚:耳の構造、音、聴覚の伝導路と聴覚野 視覚:眼の構造、結像の機序、光受容機序、視覚の伝導路と視覚野 視覚におけるその他の機能(視野、視力) 小テスト | | | | |
| 第19回 | 授業を通じての到達目標 | 感覚の生理学について理解する⑤ | | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 聴覚:耳の構造、音、聴覚の伝導路と聴覚野 視覚:眼の構造、結像の機序、光受容機序、視覚の伝導路と視覚野 視覚におけるその他の機能(視野、視力) 小テスト | | | | |
| 第20回 | 授業を通じての到達目標 | 感覚の生理学について理解する⑥ | | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 前庭感覚:平衡感覚系、前庭器官の構造、伝導路 | | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|--------------------------------|--|
| 第21回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 内分泌について理解する① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 内分泌腺、ホルモンの一般的性質、種類と作用 視床下部ホルモ、下垂体のホルモン 小テスト | | |
| 第22回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 内分泌について理解する② | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 内分泌腺、ホルモンの一般的性質、種類と作用 視床下部ホルモ、下垂体のホルモン 小テスト | | |
| 第23回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 内分泌について理解する③ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 甲状腺、副腎皮質・髄質のホルモン 小テスト | | |
| 第24回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 内分泌について理解する④ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 甲状腺、副腎皮質・髄質のホルモン 小テスト | | |
| 第25回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 内分泌について理解する⑤ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 膵臓、精巣、卵巣のホルモン 性染色体、性分化 小テスト | | |
| 第26回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 生殖について理解する① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 男性生殖系の構成、精子形成、勃起射精 女性生殖系の構成、卵巣・月経周期、 ゴナドトロピンと卵巣ホルモンの分泌、妊娠と分娩、乳汁分泌 小テスト | | |
| 第27回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 生殖について理解する② | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 男性生殖系の構成、精子形成、勃起射精 女性生殖系の構成、卵巣・月経周期、 ゴナドトロピンと卵巣ホルモンの分泌、妊娠と分娩、乳汁分泌 小テスト | | |
| 第28回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 生殖について理解する③ | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 男性生殖系の構成、精子形成、勃起射精 女性生殖系の構成、卵巣・月経周期、 ゴナドトロピンと卵巣ホルモンの分泌、妊娠と分娩、乳汁分泌 小テスト | | |
| 第29回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | まとめ① | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | 次回の授業内容を予習すること。 毎週、実施した小テストの内容を再確認し、復習すること。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 総復習、国家試験問題演習 | | |
| 第30回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | まとめ② | 生理学改訂第4版 配布資料 PC、プロジェクター | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 総復習、国家試験問題演習 | | |